

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2019年5月-2) 第111号

| 活動日 2019年 5月 19日(日) | 時間 9:30~12:00 | 天候 (晴) | 記録者 (菅田) |
|----------------------------------|--|-----------------------|---------------|
| 公募参加者 11 家族 28 名 スタッフ 15 名 | <p>(スタッフ) 磯野彰夫、菅田忠志、松本治美、小林澄夫、俵貴志子、橋野美子 山田喜義、田路義弘、塩ノ谷年子、米倉進、片岡隆夫、 清水英暢、中西優、佐藤泰仙、若尾孝子</p> | | |
| 今回実施した 内容 | <p>親子カブトムシ生育観察会(2019年第1回 幼虫観察)</p> <p>親子自然体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て公募した2019年度『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。今回は3回シリーズの1回目。</p> <p>(1) 幼虫観察(幼虫探し)と、見つかった幼虫を林内の「観察小屋」へ引越し、小屋内でさなぎ～羽化・成虫への生育場所として子どもたちに仕上げてもらった (2) 子どもたちと一緒に今年の成虫の産卵場所づくりを実施。 (3) 見つけた幼虫を2匹ずつ自宅飼育用に持ち帰ってもらった。 (4) 後半の時間で、小枝を使った『バードコール』を作ってもらいおみやげにした。</p> | | |
| 写真記録 |   | | |
| | <p>受入準備</p>    | <p>参加者が集まりはじめ受付開始</p> | |
| | <p>オリエンテーションで今日の流れの説明。今回は11家族28名の参加。 里山の自然が昔と今ではずいぶん変わってきた話、人が手入れすることですいぶん変わり、自然豊かな環境が私たちの生活にいかに大切なことであるか、里山に棲むカブトムシの話などを学んでもらう。その後、幼虫観察は“安全第一”とヘルメットを着用してもらい作業開始。</p> | | |



幼虫生育場所に設けていた“イノシシ被害防止の木枠”を外し、「腐葉土の中にはほかの虫たちも住んでいるので、手袋は絶対にとらないように」注意。「さあ中に入って～」「やさしく探すんだよ～」。



はじめは少しぎこちなく、おつかなびっくりだった子どもたちもどんどん見つけはじめる。

「わ～ でっかい！」 昨年の里山整備活動時にコナラの小枝をチップがけして積み上げておいた小山に産卵、1歳、2歳、3歳幼虫に育ち、越冬を経て育ってきた幼虫たち、みるからにたくましく丸々とした姿に男児も女児たちも「かわいい～」としっかり観察。





見つけた幼虫は、観察小屋へ引越しさせ、そこでサナギ～成虫に育つ。7月に開催の2回目観察会では、ここで育った成虫を探し持ち帰ってしっかり育てて観察してもらうことになる。その時の育ち具合で雌雄カップルでの自宅飼育により、産卵～幼虫と命のつながりを学んでもらいたい。



今年はみんなで何匹くらい引越しさせたかな？子どもたちも頑張って2～往復していたので150匹くらいはいたことになる。



あとはこの観察小屋の中で静かに成虫に育っていくことになる。



幼虫を運んだ帰り道には、観察小屋周辺の腐葉土を集めて少し離れた場所に運び、今年の成虫が秋に産卵してくれる場所を作った。



腐葉土と落ち葉をしっかり貯めて仕上がり。



みんなで記念撮影 あれ A 班は先に降りちゃった？

ほらっ 何か見つけた！なにかな？



【後半の作業 【工作:バードコールをつくろう】

乾燥させておいたヤブツバキの小枝で「バードコールづくり」に挑戦。



親子の手でノコを使って切った小枝にスタッフが穴を開けていく。



あいた穴にアイボルトをねじ込んでいくと、摩擦音でキュキュ～と鳴りだす。音がうまくすると小鳥にそっくりの鳴き声も…。うまく鳴きだしたかな？

【今回はおみやげに幼虫 2 匹ずつ】



持ち帰った幼虫はしっかり世話をするんだよ。

次回 7 月 14 日のときに様子を聞かせてください。

ふりかえりシートもしっかり書いてもらい解散

次回の案内は後日送るのでよく読んで元気に参加してください。

この事業は、平成 31 年度子どもゆめ基金の活動助成金で実施しました。